

ISICO

あなたのビジネスをインターネット上でサポート

DGnet URL ● <http://www.isico.or.jp>

vol.56



02 巻頭特集

グローバル化こそ成長のカギ 伸びゆく海外市場へ 針路を取れ!

(株)イノセンス / (株)アイツー / (株)エムズクリエイティブ / ディー・リンク (株)

ページ 成長のチャンスをつかめ
04 — 明日へのチャレンジ
(株)トーケン

目指せ!石川発の人気商品
06 — ヒットの予感
(有)ブランドル飯田 /
(株)坂栄 レストランせりな /
(有)シーブレン

制度を活用した取り組み
10 — フロム・ユーザーズ
(株)麩金

産学官連携の最前線
11 — トライアングル
(株)西野製作所

ISICOからのお知らせ
12 — イシコ・トピックス

(株)イノセンス(金沢市)が韓国企業と3D番組を共同制作した際の撮影風景。使用している3Dカメラは、2台のカメラをリグと呼ばれる架台に取り付けて同期させている(詳しくは巻頭特集をご覧ください)。

◆ 韓国で3D番組を放送、日本での営業にも弾み

(株)イノセンス

金沢市

ビジネスに先駆けて信頼関係を構築

テレビCMの制作や映像編集を手がけるイノセンスでは昨年10月、提携先の大邱ケーブルテレビネットワーク(TCN)と共同で、石川県の観光名所を3D映像で撮影した番組を制作。日韓共同制作による初の3D番組として話題になり、2月7日(月)～13日(日)の1週間、海外の旅専門チャンネルで1日2回放送された。韓

国では、3D番組の放送が急速に増えているが、海外企業と共同制作した番組の放送は初めてだ。

イノセンスが韓国とのビジネス交流に乗り出したのは平成19年にさかのぼる。「海外進出が夢だった」と話す同社の井上浩二社長が、ISICOの橋渡しによって大邱で開かれた商談会に参加。日本語が堪能な映像制作会社D-CHANNELの李相協社長のコーディネートでTCNとの交流がスタートした。

TCNは大邱広域市及び慶尚北道で90%以上の人口カバー率を誇るケーブルテレビ会社で、同社会長は韓国経済界でも非常に影響力のある重鎮だという。また、TCNのグループ企業で今回交流の窓口となったTCNプロダクションの孫榮秀社長はかつてヘビメタのバンド活動をしていたことから、金沢でラジオDJとして活躍する井上社長と意気投合し、

「ビジネスだけではなく、家族ぐるみで付き合うなど、メンタルの部分で親交が深まっていった」(井上社長)。こうしたことがその後の信頼関係構築に大きく寄与したと思われる。

観光をテーマに日韓共同で初の3D番組制作

井上社長が何より驚かされたのが、韓国企業を持つ最新の撮影・編集機器やハリウッド級の撮影技術である。国家戦略の一環としてIT&コンテンツ産業の育成に取り組む韓国だけに、映像制作会社にも手厚い支援がなされているのだ。

一方で、井上社長は「音楽やナチュラルな映像表現などは日本にも優位性がある」と強調。その言葉どおり、イノセンスが大邱の音楽フェスティバルに送り込んだ日本のアーティストはいずれも高く評価された。また、平成20年には日本のテイストを感じさせる映像感覚を買われて世界的なおもちゃメーカー・レゴ(本社・デンマーク)の韓国版テレビCMの撮影・編集、音楽制作を



「日本と韓国では商習慣も異なるが、連携していくにはその違いを認めて受け入れることも大切」と話す井上浩二社長

グローバル化こそ成長のカギ 伸びゆく海外市場へ 針路を取れ!

少子高齢化が進み、人口が減少する日本市場に成長の余地は少ない。そこで成長のカギを握るのが海外市場への展開である。ISICOは、平成15年度から韓国・大邱(テグ)広域市(人口約250万人、韓国第4の都市)にある大邱デジタル産業振興院(略称:DIP)との交流をスタートさせ、県内のIT&コンテンツ関連企業の海外進出の橋渡しと側面支援を行ってきた。企業間のアライアンスは国内でもそう簡単ではないが、この間、具体的な業務提携、技術提携を生み、県内企業の海外進出の足がかりを作ることになった。

最近、韓国経済の元気象徴としてサムスンやLGの紹介記事をよく目にする。そのダイナミックな海外戦略とそのスピーディーな意思決定システムは学ぶべきことが多い。今回の特集では、この交流を通じて積極的に海外展開を目指し始め、閉塞感が蔓延した経済の打破に挑戦する県内企業を紹介する。



県内IT企業によるアライアンスを目指す吉田雅博社長(左端)、松崎秀規社長(左から2人目)、荒井芳仁社長(右から2人目)。右端は韓国とのビジネス交流を橋渡ししたISICOの尾井一秀課長、中央は(株)アイ・ツターの白才娟さん

担当。その後、TCNと業務提携に関するMOU(覚書)を交わした。

イノセンスとTCNでは、今年5月に韓国で開かれる「3Dカンファレンス」のオープニング映像のほか、韓国でニーズの高い日本の観光をテーマにしたコンテンツを共同制作する予定。今後、3D映像の制作は日本でも本格化が予想され、井上社長は「韓国企業との協力体制を日本での営業活動でも大きなアドバンテージとしていきたい」と意気込んでいる。

(株)アイ・ツター 金沢市

(株)エムズクリエイティブ 小松市

ディー・リンク(株) 金沢市

大邱との交流を機に海外展開を強く意識

大邱との交流を糸口に海外展開を図る企業はイノセンスだけではない。その一つ、アイ・ツターではISICOの交流事業をきっかけに、約7年前から大邱にあるITベンチャー企業Cnsoft社と業務提携。インターネットを介して遠隔地のパソコンを操作するソフト「リモートPCミスターオン」など、さまざまな製品を共同開発している。「もはや東京を経由して、日本全国へ展開するという時代ではない」。同社の松崎秀規社長はそう語り、「これからは地方の企業と海外市場がダイレクトにつながる時代になる」と断言する。

エムズクリエイティブの吉田雅博社長も、大邱との交流を契機に、あらためて海外展開の重要性を認識した一人だ。同社では平成20年にオフショア開発の拠点として中国・大連市に現地法人・大連エムズソフトウェアを設立。ここ

では、同社の自社製品である勤怠管理システムを開発しており、今後は海外でのシステム販売に期待をかける。このほか、加賀温泉の宿泊施設や観光情報などを紹介するiPhone向けアプリ「Onsen JPN」が日本国内よりも韓国で数多くダウンロードされていることから、今後は国内外でのスマートフォン向けアプリの開発、販売に本腰を入れる考えだ。

また、大邱での商談会に参加したディー・リンクの荒井芳仁社長も、臨場感あふれる立体的な空間を表現できる「全景映像技術」を用い、ウェブページを大量制作するクラウドシステムで海外市場への参入を準備中だ。

今年中に県内でIT企業交流会

大邱とのビジネス交流を通して親交を深めた3社の社長が、海外展開と同様に思いを強くしたのがIT企業同士の連携だ。松崎社長は「一口にIT企業といっても、技術分野が幅広いため、何でも1社でこなせる企業はない」とした上で、「得意とする技術が違う県内外のIT企業が連携して海外企業との商談に臨めば、さらに商機が広がる」と力を込める。

そうした思いを具現化しようと考

えた3人は、昨年から、北九州のIT企業など約20社で組織され、韓国の(財)釜山情報産業振興院との連携で成果を上げる北九州国際ITビジネス推進会(KLIC)との交流をスタート。昨年9月には、釜山と北九州でそれぞれ開かれた商談会に参加したほか、11月には(社)沖縄県情報産業協会も加わって沖縄で開催された交流会(沖縄ラウンド)にも臨んだ。

こうした取り組みをさらに発展させるため、今後は3社を中心に、グローバル化に意欲的な複数の県内IT企業がアライアンスする組織を発足させる計画である。この組織では、勉強会や海外調査のほか、主に東アジア、東南アジアのIT企業や経済団体などと商談会を催す予定。今年中にはKLICや沖縄県情報産業協会、釜山情報産業振興院などを招いて、石川県内でIT企業交流会を開催するプランを温めており、将来的には、県内企業が開発した製品の海外での販売、あるいは海外製品の日本語化と日本国内での販売、県内と海外の企業による共同開発といった成果を見込む。

1社対1社の提携からグループ対グループの連携へ。民間企業が主導する新たなビジネス交流に期待が高まる。

■代表者 根上 健正
■創業 昭和45年7月
■資本金 6,000万円
■従業員数 50名

■事業内容 建設事業、不動産開
発事業、賃貸マンション事業、環
境関連事業など
●http://www.token-web.com/

水やり不要の屋上緑化基盤材 「建設技術審査証明」を取得



「環境問題への取り組みは、建設業にとっての大きな課題」との考えから、新事業に乗り出した(株)トークンの根上健正社長



「グリーンビズ-G」に使われている超微多孔セラミックス材。1枚は50センチ角で厚さは25ミリと40ミリの2タイプ。素材全体に微細な気孔が分布している

建設総合サービス業の(株)トークンは、厳しさを増す建設業界にあって、躍進を続けている元気企業である。そんな同社が、事業の新たな柱として力を入れるのが環境事業だ。核となる屋上緑化基盤「グリーンビズ-G」は昨年12月、国土交通省が所管する(財)都市緑化技術開発機構から「建設技術審査証明(都市緑化技術)」を取得。環境分野は注目度が高く、今後も成長の見込める市場だけに、国のお墨付きを得て、販路開拓にますます拍車がかかっている。

国のお墨付きで 販路開拓に追い風

「グリーンビズ-G」とは、微細な気孔を持つ「超微多孔セラミックス材」に土を盛り、セダム類などを植栽した屋上緑化基盤である。このセラミックス材には0.1ミクロンから数ミリ大の気孔が無数にあるため、優れた吸水性や保水性、断熱性を有する。屋上に敷設すれば雨や夜露を気孔にため込み、乾燥や気温の変化に強いセダムなどの植物を植えておけば、水やりをしなくても生育が可能だ。

超微多孔セラミックス材は小松精練(株)(能美市)と(株)アースエンジニアリング(金沢市)が開発、製造。(株)トークンが植物を育成して屋上緑化基盤に仕上げ、販売、施工する。

今回取得した建設技術審査証明では、保水性や水の拡散性、断熱効果など、右記の5点について審査を受け、証明書を交付された。

審査証明結果の概要

- 1 飽和含水率が、重量比で基盤材の乾燥重量の50%以上、容積比で基盤材の容積の40%以上であることが確認された。
- 2 基盤材単体あるいは4枚を水平に並べた場合でも、9枚を15度の傾斜を付けて並べた場合でも、注入した水が基盤材全体に均等に拡散することが確認された。
- 3 セダム類を植栽した場合、人工土壌に芝を植栽した場合よりも、水分の蒸発散量が灌水後は大きく、乾燥時は小さいことが確認された。
- 4 セダム類を植栽した場合、緑化されていない屋上に比べて、夏季の熱流入を約80%、冬季の熱流出を約40%、削減する断熱効果を有すること(屋上の保護コンクリートの下に厚さ30ミリの断熱材がある場合)が確認された。
- 5 セダム類を植栽した場合、夏季30日間の無降雨・無灌水に耐えることが確認された。



「グリーンビズ-G」の施工実績。しいのき迎賓館の2階テラス(写真左)、小松精練(株)の本社棟屋上

この証明は民間企業が開発した新技術を学識経験者らが客観的に審査するもの。審査には石川県工業試験場、石川県立大学、金沢大学、金沢工業大学が実施した試験結果が用いられた。

平成9年からスタートした審査証明事業で、都市緑化技術の認定は全国で8件目、屋上緑化事業では2件目となる。北陸では第一号の認定で、セラミックスを利用した技術の認定も初めて。平成22年度には石川ブランド認定製品にも選ばれた。



超微多孔セラミックス材の製造技術を開発した(株)アースエンジニアリングの大西和弥社長。小松精練(株)や(株)トーケンと連携することで開発、販売に弾みがついた

(株)トーケンの根上健正社長は「ハードルの高い公的な審査証明を取得できたことは大変な喜び」と笑顔を見せ、「国や地方自治体、民間企業に安心して採用してもら

うための大きな追い風となる」と販路拡大に向けて腕まくりする。

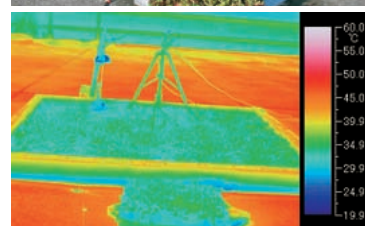
染色工場の廃棄物を利用 基盤材の機能をアップ

そもそも「超微多孔」のベースとなった発泡セラミックス材は(株)アースエンジニアリングがISICOなどの支援を受けながら開発してきたもので、粘土や能登産の珪藻土、鉄スラグなどを1,000℃以上の高温で焼成し、出来上がる。

平成20年からは、中小企業基盤整備機構の新保善正地域資源支援プロジェクトマネージャー(当時)の橋渡して小松精練(株)との共同開発がスタート。同社が微生物を用いて工場排水を処理する際に発生する廃棄物「余剰バイオマスケイク」を原材料に混ぜることで、気孔の密度が高まり、強度が1.5～2倍にアップ。製造コストも従来品に比べ約10%低減した。

小松精練(株)の関連企業である(株)トーケンが参画し、販売を本格化したのは平成21年のこと。(株)トーケンでは小松市鶴ヶ丘町に常設展示場をオープンさせると同時に、ビニールハウス5棟で緑化用植物を栽培。建設業で培ってきたネットワークや技術を生かして、販路開拓や屋上への敷設を行う。

屋上を鮮やかなグリーンに変えてくれるだけでなく、優れた断熱性



真夏のビル屋上で実験した際のサーモグラフィ。「グリーンビズ-G」を敷設した場所は周囲に比べて10℃ほど温度が低い

で夏の暑さや冬の寒さをやわらげ、省エネやCO₂の排出削減に役立つとあって、北陸を中心に販売は順調に伸びている。首都圏や関西圏でも営業を強化するため、昨年2月には東京・銀座に拠点を設け、今年2月には大阪・梅田に常設展示場を備えた事務所を開設した。

今後は超微多孔セラミックス材を屋上緑化だけでなく、室内緑化や壁面緑化にも応用する計画。新たに県内で排出される廃棄物を混ぜて強度を2倍にすることに成功しており、道路や歩道、駐車場の路面材などとして、緑化以外の用途での販売も見込む。

「環境ビジネスには大きな可能性が広がっており、社会貢献にもなる」と話す根上社長。平成23年度には前年度実績の約2.5倍となる4億円の売上目標を掲げ、将来有望な事業の柱として期待をふくらませている。

ゲルマニウム配合の健康サポーター 独自の編み方で快適な着け心地

血行を促進し、 痛みを緩和

阪神タイガースの承認グッズや大手スポーツメーカーのサポーターなど、各種ニット製品を製造するブランド飯田。ゲルマニウムを配合した健康サポーター「ぽっぷん★るーるー」を新たな柱に育てようと、いしかわ産業化資源活用推進ファンド(活性化ファンド)の助成制度を活用して、販路開拓やラインアップ拡充に取り組んでいる。

ゲルマニウムは血の流れを良くしたり、筋肉のこり、痛みの緩和に効

果があるとされている物質。「ぽっぷん★るーるー」には、レーヨンに微細なゲルマニウムを練り込んだ繊維が使われており、購入者からは「ひざの痛みが軽くなり、歩くのが楽になった」「旅行で長時間歩いても疲れにくくなった」といった喜びの声が寄せられている。

ソフトで軽く、圧迫感のない着け心地も大きな特徴だ。従来のサポーターは患部を固定したり、ずれを防ぐため、強く締め付けるタイプが多い。しかし、「ぽっぷん★るーるー」の用途は血行促進や痛みの緩和であり、毎日使ってもらうために快適な着け心地にこだわった。

それを可能にするのが特許を取得した独自の編み方である。ゲルマニウム配合繊維とストレッチ繊維を、厚みを変えながら交互に編む特殊な方法で、これによって伸縮性が大幅にアップ。体の動きに合わせてサポーターが柔軟に伸び縮みするので、締め付けなくてもずれ落ちにくいのだ。この編み方には、通気性を良くし、むれにくくするメリットもある。

カラフルに編んで 若者向けに

同社がこの健康サポーターを開発したのは4年前である。これまでネット通販やカタログ通販、地元の道の駅で販売してきたが、販路開拓はこれからが本番だ。今春には(株)平和堂(滋賀県)が石川県内と福井県内で展開している平和堂薬品で



サポーターの機能性やファッション性を追求する飯田道昭社長(写真左)と営業担当の飯田紗耶可さん

も販売がスタートする予定で、飯田道昭社長は「ドラッグストアなどにも販路を広げたい」と意欲をみせる。

ラインアップの拡充も大きなテーマだ。既に販売しているひざ用(2,079円)とひじ用(1,575円)に加え、今後は腰用のサポーターの開発に乗り出す。

また、2月上旬に東京ビッグサイトで開かれた「ギフト・ショー」では、蛍光色や金糸、銀糸の繊維を使ってカラフルに編み上げたサポーターをバイヤーに提案。営業担当の飯田紗耶可さんは「現在は黒と生成の2色だが、ファッション性を高めて、若者にも購買層を広げたい」と期待を寄せる。

このほか、ゲルマニウム配合繊維の代わりに他の機能性繊維を使用するなど、新商品開発に向けて構想を練っている。

(有)ブランド飯田

河北郡津幡町太田ほ314-2
TEL.076-289-2498

- 代表者 飯田 道昭
- 創業 昭和53年12月
- 資本金 300万円
- 従業員数 9名
- 業務内容 健康サポーター、ニット製品、刺繍製品などの企画、製造、販売

● <http://www.prendreida.com/>



ひじ用の「ぽっぷん★るーるー」。厚い部分はゲルマニウム配合繊維、薄い部分はストレッチ繊維で編まれている

醤油と野菜にこだわった ドレッシングに リピーター続々



ドレッシングは1本350ml入りで880円。北海道富良野産のタマネギなど、原料はどれも生産者の顔が見えるものばかりだ

素材の味を 引き立てる名脇役

金沢市内で「レストランせりな」を経営する坂栄では、いしかわ産業化資源活用推進ファンド(活性化ファンド)の認定を受けてオリジナルのドレッシングを開発した。商品名は「醤油名匠motoji作どれっしんぐ生」。日本醤油協会から「醤油名匠」に認定された同店のオーナーシェフ・坂口本二社長が考案した醤油ベースの和風ドレッシングだ。

「ドレッシングの味が主張しすぎでは意味がない。いかに素材の味

を引き立てるかを追求した」。坂口社長がそう話す通り、醤油の香り高く、深いコクがあるにもかかわらず、後味がとてもさっぱりとしているのが特徴だ。そのため、サラダにかけて食べると野菜本来の甘みが一段と際立つ。

そもそもこのドレッシングは、同店の料理に創業時からずっと使われ続けているもの。「この味を家庭でも食べたい」との顧客の声を受けて、3年前に商品化に踏み切った。

店舗のほか、おいしくて、安全・安心な野菜を販売する関東から九州まで9府県のスーパー約20店で販売。年々リピーターが増えており、売り上げは毎年倍増を続けている。

真摯な姿勢で 手作りを貫く

同店は素材にこだわり、食材の一次加工からソース類に至るまですべてを一から手作りするなど、料理店としての“当たり前”を大切にしてきたレストランとして根強い人気を誇る。ドレッシングの商品化にあたっては、「景気が悪く、モノが売れない時代だからこそ、心を込めて本物の商品を作ることが大事」(坂口社長)との信念から、原料を徹底的に見直した。

醤油は、昔ながらの醤油造りで知られるヤマト醤油味噌(金沢市)から調達。タマネギやリンゴ、セロリはかつて同店でアルバイトした経験があり、現在は独自の品質評価

法に基づき良質の青果を卸売りする山内外茂男氏から、糖度や食味、栄養、安全性の裏付けの取れたものを仕入れている。

ドレッシングは厨房の中ですべて手作り。原料の味と香りを生かすために加熱処理は行わず、増粘剤や保存料なども一切使っていない。坂口社長は「オンリーワンの商品に仕上がった」と自信を見せる。

製造はレストランの手が空く午後2時半から5時の間だけで、一日に作れるのは50本ほど。とんとん拍子に売り上げが伸びるため、「工場を建ててもっとたくさん作ってはどうか」との声もあるが坂口社長に野心はない。「あくまでも洋食店が本業であり、それを忘れてはいけない」と本物の味を求めてただひたすらに専心する。



サラダはもちろん、マリネや唐揚げ、しゃぶしゃぶにもよく合う

(株)坂栄 レストランせりな

金沢市直江町イ3-1
TEL.076-237-7770

- 代表者 坂口 本二
- 創業 昭和49年2月
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 13名(アルバイト含む)
- 業務内容 レストラン経営、オリジナルドレッシングの製造・販売

● <http://www.restaurant-serina.com/>



料理人として約50年のキャリアを持つ坂口社長。その技術力に加え、これまで蓄積した人脈を総動員して商品化に取り組んだ

岩絵の具や漆で 文字盤を彩色 いにしえの時を感じる 和の腕時計

草木染めの組紐を ベルト代わりに

ハンドメイドの時計を企画、製作するシーブレンでは、3年前から伝統的な技術を取り入れ、日本の美意識を表現した腕時計「はなもっこ」シリーズを新たに展開し、好評を博している。



「外国の高級腕時計では味わえない、日本の伝統を身に付ける満足感を味わってほしい」と話す井波代表

同シリーズの文字盤は、大きく二種類に分けられる。一つは日本画を描く際に用いられる岩絵の具で彩色した文字盤だ。これは日本画家としても活動する同社の社員の手によるもので、薄手の手すき和紙に、接着剤の役割を果たすニカワと混ぜた岩絵の具を幾重にも塗り重ねて製作する。岩絵の具は主に鉱物を砕いて作られており、その粒子がさらさらと独特の輝きを放つ。

もう一つは漆塗りを施した文字盤である。漆塗りは輪島塗や山中塗器

の職人が手がけ、つやのある^{ろいろ}呂色仕上げとなっている。

これらをベースに、和紙や^{まきえ}蒔絵、^ら螺鈿で^{でん}図柄を描いたり、金箔をちりばめたりして多彩なバリエーションを生み出している。

ベルトにはシンプルな革製に加え、最高級の絹糸を使った草木染めの組紐を採用。腕時計は簡単にベルトの交換ができるようデザインされており、ファッションや季節に応じてコーディネートを楽しめる。

価格は22,995円から53,025円。現在、銀座三越や文具専門店の伊東屋銀座本店、古美術を専門に展示する根津美術館（東京）など、首都圏を中心に19店舗で販売しており、じわじわと人気広がっている。

男女兼用タイプを 今春発売へ

そもそも同社は、中学校で使われる技術家庭科の実習用教材を製作、販売している井波人哉代表が「手作りの良さを多くの人に広めたい」との思いで設立した。創業以来、ファッション性に優れたオリジナル腕時計を製作し、約15年で6万個以上の販売実績を有する。

はなもっこシリーズは「伝統工芸の世界観や日本古来の美意識を優しく、美しく伝えたい」（井波代表）との考えから製作をスタート。いしかわ産業化資源活用推進ファンド（活性化ファンド）



赤漆の文字盤に組紐ストラップ（31,500円）、緑瑪瑙（みどりめのう）に金箔を施した文字盤に革ベルト（25,275円）を組み合わせた「はなもっこ」。腕時計の下にあるのが岩絵の具の原料となる鉱石

の支援を受けて、商品開発や販路開拓に取り組み、平成22年度には「石川ブランド優秀新製品」銅賞、「金沢ブランド優秀新製品」大賞にも選ばれた。

文字盤を彩るのはどれも日本古来の色であり、井波代表は「今の時間を確認するために腕時計を見て、いにしえの時に思いを馳せてほしい」と笑顔を見せる。

これまで女性用だけを製作してきたが、現在は、今春発売に向け、大ぶりの男女兼用タイプを開発している。また、九谷焼の絵付けの技術を取り入れた文字盤も試作中だ。

井波代表は「ハンドメイドは一部の人が趣味で買うというイメージが強いが、普段づかいできる「はなもっこ」を手始めに多くの人にその良さを感じてもらい、伝統工芸への興味も深めてもらえれば」と期待を寄せている。

（有）シーブレン

金沢市涌波1-9-5
TEL.076-260-7123

- 代表者 井波 人哉
- 創業 平成6年11月
- 資本金 500万円
- 従業員数 3名
- 業務内容 ハンドメイドによる時計の企画、製作、販売

● <http://www.cbain.co.jp/>



第二工場が本格稼働へ 細工麩の生産能力を増強

(株) 麩金 ふうかね

- 所在地 金沢市畝田中4-57-2
TEL.076-267-3811
- 代表者 中川 乃布彦
- 設立 昭和55年11月
- 資本金 1,500万円
- 従業員数 40名
- 事業内容 業務用生麩および自社
製品の製造、販売
- <http://www.fukane.co.jp/>



ISICOの設備貸与制度を活用して導入した生麩の練り機
 (写真上)と製品を急速に冷凍するショックフリーザー

おり、フル稼働すれば、生産能力は約10倍となる。

第二工場は、金沢市畝田中にある本社工場が手狭になったことから昨年夏に着工した。本社工場と同様、HACCPに準ずる衛生管理手法を導入し、安全・安心な麩の大量供給を可能とする設備を整えた。

→ 通販への参入で 事業を拡大

同社が生産能力を増強した狙いは二つある。一つはインターネット通販やカタログ通販への参入だ。そもそも同社では金沢や京都、東京をはじめ、全国の料亭や割烹、居酒屋などに生麩を卸している。伝統的な食材である麩の需要は大幅に増えることはないため、中川乃布彦社長は事業を拡大しようと、2～3年前から通信販売に力を入れてきた。大手通販会社にも採用されるなど、通販での売り上げは順調に伸びており、今後、十分な供給量を確保するために新工場が大きな役割を担う。

もう一つの狙いは、細工麩の生産能力強化だ。細工麩とは、桜の花や紅葉の葉などをかたどった麩のことで、金沢の郷土料理である治部煮をはじめ、煮物、すき焼き、鍋などに彩りを添える食材である。

中川社長はこの細工麩について

桜や梅、紅葉などをかたどった細工麩。桜を例にとってみても、濃さの異なるピンクなど、6色の生麩が使われている



「今後、料理を手作りするための素材として需要が増える」と市場ニーズを見込んでいる。例えば、温めるだけで提供できる茶碗蒸しなど、調理済みの加工品を使っていた店舗も、消費が低迷する時代には、料理に手をかけて、他店との差別化を図る。その際、必要となるのが料理を彩る細工麩というわけだ。

桜や紅葉の細工麩は、何色もの生麩の生地を人の手で重ね合わせて木型に入れてゆで上げる。手間のかかる商品だけに、同社ではこれまで生産を抑えてきたが、工場の新設を機に量産用の木型も特注し、生産効率をアップした。中川社長は「販路はすでに全国に広がっている」と販売力に自信を示し、今年1年かけて生産力の強化に取り組む考えだ。



細工麩の製造風景。熟練した作業者が生麩生地の状態を確認しながら、人の手で重ね合わせていく

→ 制度を活用して、 練り機などを導入

生麩を製造、販売する麩金は、金沢市専光寺町に第二工場を新設した。新工場は鉄骨二階建てで、敷地面積は約1,077平方メートル、延べ床面積は約532平方メートル。ISICOの設備貸与制度を利用して、練り機、ゆで機、ショックフリーザー（急速冷凍機）、スライサーなどを導入した。昨年10月から操業して



「低カロリー・高タンパクで、消化吸収しやすいので、病院食などにも最適」と新たなニーズを探る中川社長

人工知能の学習機能で ピッチングマシンが進化

有名投手との疑似対戦も

西野製作所では、世界で初めて「ニューラルネットワーク(NN)」と呼ばれる人工知能を搭載し、高度な学習機能を有するピッチングマシンの開発に取り組んでいる。

このマシンは三つの円盤状のローラーを使ってボールを送り出す仕組み。ローラーの回転速度を変えたり、投げ込む角度を上下左右に変化させることで球速や球種、コースを制御する。ちなみに球速は80～160kmで、ほぼすべての球種を投げられる。

最大の特徴は、希望する球速、球種で、投げたいコースに投球する高い精度だ。あらかじめ人の手でローラーなどを設定して数十パターンの球を投げさせておくと、その後は投げた経験のない球でも、これまでのデータを基に人工知能がローラーの回転速度などを自動的に計算し、投げしてくれる。コントロールの誤差はボール1個分にとどまるという。前もってプログラムしてお

ば、実在する投手の投球パターンや過去の名勝負の配球を再現することも可能だ。

NNについては金沢大学理工研究域機械工学系の酒井忍助教と連携。石川県とISICOが実施する「いしかわ次世代産業創造ファンド」事業の助成を受けて開発しており、今年5月に県産業展示会で開催される機械工業見本市「MEX 金沢」でお披露目する計画だ。

自社製品の強化に注力

西野製作所は昭和50年代まで、木工機械メーカーとして自社製品を主力としてきた。近年は、設計から資材の調達、加工、組み立てまでを一貫して手がける技術力が評価され、工作機械や産業機械の受託製造が主流となっている。

一方で、自社製品の強化にも挑戦し続けており、このピッチングマシンの製造もその一環だ。同社は北陸実業団バスケットボール選手



革新的なピッチングマシンの開発に挑む西野十治社長(写真左)と板坂重和技術部長。会社の応接室にはスポーツ関連のトロフィーや優勝旗がずらりと並ぶ

権大会で通算13回も優勝するなどスポーツに熱心な企業である。西野十治社長も元バスケットボール選手で、プロ野球観戦が趣味。スポーツ好きが高じてピッチングマシンの開発に乗り出したというわけだ。

プロ野球や高校・大学の野球チーム、バッティングセンターでの需要を見込み、1台300万円で年間10台の販売が目標。西野社長は、このマシンで練習した選手がいずれプロで活躍することを夢見て、開発を進めている。

(株)西野製作所

- 所在地 かほく市浜北イ50
TEL.076-283-3202
- 代表者 西野 十治
- 創業 昭和24年6月
- 資本金 2,000万円
- 従業員数 60名
- 事業内容 工作機械、産業機械、木工機械などの製造、販売
- <http://www.nishino-ss.co.jp/>

Message from Another Side

金沢大学理工研究域機械工学系・バイオニックデザイン研究室では、知的ピッチングマシンの開発研究に取り組んでいます。

今回、開発するマシンには、ニューラルネットワーク(NN)システムを用いた人工知能を搭載します。NNは人間の脳神経回路網を模倣しており、人間と同じように学習機能があります。従来のマシンでは、あらかじめ設定した球速・球種・コースの範囲のボールしか投球できませんでしたが、開発予定のマシンでは、もっと曲がるボールやもう少し高めのコースなど、当初設定したボール以外の打者の要望する

ボールをマシン自身が考えてローラーの回転数などを決定し、投球することが可能な進化的なマシンとなります。

このように本研究室では、各種スポーツマシンの知的制御法の研究を行っています。

国立大学法人金沢大学
 理工研究域機械工学系・
 バイオニックデザイン研究室
 助教 酒井 忍

〒920-1192 金沢市角間町
 TEL:076-234-4670 FAX:076-234-4668
 Email:sakai@t.kanazawa-u.ac.jp



ITを活用した企業革新へ 出会いの場を提供

地場中小企業向けITマッチング商談会

ISICOは1月18日、「地場中小企業向けITマッチング商談会」を開催しました。商談に先立ち、ITコーディネーターの福田和夫氏が県内企業におけるIT導入の成功事例を紹介しました。その後、ITの活用により経営力向上を図りたい地場中小企業（7社）とIT企業（14社）によるマッチングが実施され、積極的な商談が行われました。



第一部のセミナーでは、ITによる企業変革の成功事例が紹介されました

◎詳しくは <http://isico.biz/> をご覧ください。

首都圏での販路開拓を目指し 県内企業19社が出展

第71回東京インターナショナルギフト・ショー春2011



県内企業が生活用品分野の新商品を広くアピールしました

「第71回東京インターナショナルギフト・ショー春2011」が2月1日～4日、東京ビッグサイト（江東区有明）で開催され、県内企業19社が出展しました。期間中は多くの企業、バイヤーから関心が寄せられ、今後の成約に向け期待が高まっています。

定員
150名
参加無料

ネットショップ コンテスト北陸2011

表彰式 & モチベーションアップセミナー

北陸3県の196店舗の中から選ばれた優良ネットショップを発表。静岡県の繁盛店「ところてんの伊豆河童」の栗原康浩店長に「こんな小さな会社・商品でもよみがえり10年続けられた」のテーマでご講演いただきます。ふるってご参加ください。



セミナーで講演する「ところてんの伊豆河童」の栗原康浩店長

■日時／平成23年3月2日（水）13時30分～16時30分
（17時～懇親会）※懇親会は有料

■会場／石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール

※参加申し込みについては、下記Webサイトをご覧ください。

<http://www.omisebatake-isico.com/contest/2011/2011motiup.html>

節分も過ぎたというのに、まだまだ寒い日が続きますね。寒いのがとても苦手な私は、今号の取材にもかなり着込んで出かけました。そんな私が今回の取材でとっても良い商品に出会いました。それが6ページで紹介したブランド飯田の“ぼっぷん★るー”です。これは、血行をよくするゲルマニウムを練り込んだ繊維が使われた健康サポーターです。取材に応じてくれた飯田さん親子に勧められ、実のところ半信半疑でひざ用サポーターを足首に着用してみたところ、足元がぽかぽかと温まり、嫌な締め付け感も全く感じられません。今では、寝るときの必需品となりました。冷え性の方はぜひ、試してみたいはかがでしょうか？

編集
後記



さて、寒い日がこんなに続くと、春が待ち遠しいですね。春よ早く来い。ちょっと強引ですが、「来い」と言えば「恋」ということで、みなさんは内灘町が「恋人の聖地」に認定されていることをご存じでしたか？今回9ページで紹介した内灘町のジャンティールキタカミの北上社長は町の活性化に一役買おうと「恋のお守り」を企画し、息子さんがハート形のかわいらしいネックレスを製作しました。親子の連係プレーが今、若い女性にとっても人気の商品になっているそうです。今、片想いをしているという方はこの「恋のお守り」を持っていると想いが叶うかもしれませんよ。

今回は親子や家族で頑張っている方々との出会いがあり、心温まるお話がたくさん聞けました。（藤）



財団法人
**石川県
産業創出支援
機構**
Ishikawa
Sunrise Industries Creation
Organization

●お問い合わせは

TEL:076(267)1001
FAX:076(268)4911

〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館

URL <http://www.isico.or.jp>
E-mail info@isico.or.jp

【発行月】平成23年2月（年6回発行）
【編集協力】ライターハウス／金沢市問屋町1-75
【印刷所】(株)橋本確文堂／金沢市増泉4-10-10